社会福祉法人麦　２０２０年度法人本部事業総括

１、法人運営

１）理事会・評議員会

理事会　2020年5月28日	1, 2019年度事業報告案 2, 2019年度決算案 3, 監事監査報告 4, 定款改正 5, 社会福祉法人麦経理規定改正案 6, 理事長業務報告 7, 評議員会の議題
評議員会 2020年6月18日	1, 2019年度事業報告 2, 2019年度決算 3, 監事監査報告 4, 定款改正 5, 社会福祉法人麦経理規定改正
理事会　2020年7月2日	1, 給料表の改正 2, 麦の里駐車場用土地購入について 3、麦の里電話機更新業者の選定について 4, 車いすリフト車の購入及び施設長からのステップワゴン寄贈について
理事会 2020年11月5日	1, 予算執行状況及び第1次補正予算案 2, 次期理事・監事・評議員・評議員選任解任委員の選任について 3、特定処遇改善手当の改正について 4, 電話設備更新について 5、駐車場整備について 6、千葉市天海訴訟の支援について 6、評議員会の議題
評議員会 2020年11月5日	1,　2020年度予算執行状況及び第1次補正予算 2, 次期理事・監事・評議員・評議員選任解任委員の選任について予算執行状況
理事会　2021年3月25日	1, 定款変更 2,　2020年度第二次補正予算 3, 2021年度事業計画（案）4,　2021年度予算案 5, 次期・理事・監事・評議員の候補者について 6, 欠員の評議員選任・解任委員の選任について 7, 4月からの報酬改定について 8, 愛知県・瀬戸市法人監査について
評議員会 2021年3月25日	1, 定款変更 2,　2020年度第二次補正予算 3, 2021年度事業計画（案）4,　2021年度予算案 5, 次期・理事・監事・評議員の候補者について

２）監事監査

2020年5月20日に実施

3）評議員選任・解任委員会

欠員委員の補充について候補者を検討し、2021年3月25日理事会において2名選任しました。

次期評議員の選任は、新年度において委員会を開催し選任する予定です。

2、事業計画

1）短期計画（1年～2年）

今年度中に、麦の里の就労継続支援B型事業を廃止し、生活介護単独事業所とします。**→6月から就労継続支援B型事業を廃止し、生活介護事業定員を40名にしました。**

将来的な事業展開に備え、新たな事業用地を探します。良い物件があった場合は、理事長に相談しながら取得に向け進めます。**→2020年度中に5物件を検討しました。3件については、広さや地形条件が合わず断念。2件については、現在進行形で検討しています。**

麦の里・七色の麦の防災グッズは、瀬戸市と協議し、必要な整備を進めます。

→備蓄食料・備蓄飲料水について一部を更新しました。今後今回も含め5年ですべての更新が完了するよう進めます。

瀬戸市社会福祉課から防災備品について問い合わせをいただきましたが、進展していません。

麦の里ビジネスフォンの更新**→10月に更新しました。**

蛍光灯生産中止動向を注視し、麦の里全館LED化を検討する。

パナソニック 2019年3月器具生産中止（ｻﾝﾖｰﾌﾞﾗﾝﾄﾞ蛍光灯は生産終了）

三菱電機　2021年3月までにすべて生産中止

日立　2020年3月生産中止

東芝　2020年3月までに生産中止

→今後蛍光灯が品薄となり、一気にLED化が進むと予想されることから2021年度から2年計画で進めることを検討しています。

ステップ3号の更新**→施設長のステップワゴンを寄贈いただきました。**

軽貨物車の更新**→共同募金会に申請。2021年3月中に結果が分かります。**

麦の里駐輪場整備**→実施できませんでした。**

麦の里駐車場用地約100坪を購入しましたが、整備ができませんでした。

2）中期計画（3年～5年）　**→　引き続き計画を進めます。**

2025年までに第2麦の里の開所を目指します。

麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

3）長期計画（5年以上）　**→　引き続き計画を進めます。**

グループホーム事業の拡充

生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

4） 事業計画の繰り上げ実施

緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合がある。

国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

3、 地域公益活動

福祉有償運送事業の実施。**→対象者がおらず実施していません。**

麦の里仲間の給食費軽減措置の継続（材料費代1食275円を230円に軽減)。

→継続して実施しました。

近隣住民との交流。地域行事への貢献。**→コロナにより中止が相次ぎました。**

七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）

→ 計画できませんでした。

4、 人材育成及び確保

研修への参加、資格取得の支援を実施します。

→強度行動障害者支援従事者研修(基礎・実践)等の資格取得を進めました。

事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。

→2名の正職員、3名の準職員を採用。非常勤看護師1名を正職員化、非常勤職員4名を採用しました。

正職員1名、非常勤職員2名が退職しました。

社会福祉法人麦　２０２１年度法人本部事業計画

１、基本理念

「夢はでっかく、歩みは一歩ずつ」

どんなに重い障害があっても、一人の人間として生き生きと活動できる場所を目指します。「育ち合い、支え合いを大切にした、真に人間らしい営み」をめざして、彼らを取り巻く家族、そして職員たちが一緒になって、地域の人たちの理解を得ながら、ゆっくりと活動を展開していきましょう。

沿革

１９９３年「どんなに重い障害があっても地域で生活したい」という思いのもと、麦の里の活動は始まりました。

既存の施設からも断られるような、重い知的障害者や重複障害者を受け入れながら活動を続けています。障害を持ちながら前向きに頑張っている人たちを、共に生き、共に成長する「仲間」として、排除せず、彼らと共に麦の里は成長してきました。

１９９１年　４月　民家で活動開始
１９９３年　３月　障害者とともに歩む麦の会設立
１９９４年　５月　旧上品野小学校で作業開始
１９９５年１１月　共同作業所麦の里開所
２００３年　７月　社会福祉法人麦設立
２００４年　９月　身体障害者授産施設・通所療護施設「麦の里」開所
２００９年　２月　グループホーム建設予定地取得
２０１１年１２月　生活介護・就労継続支援Ｂ型多機能事業所へ移行
２０１３年　２月　グループホーム用中古住宅取得（品野町１丁目・第２ホーム）
２０１５年　４月　グループホーム「七色の麦」開所
２０１９年　５月　グループホーム「七色の麦」の３番目のホームとして「青色の麦」開所

２、運営方針

１）私たちは社会的使命と社会的責任を認識し健全な事業運営を行います。
２）私たちは公正公平を原則とし、「相談」と「話し合い」を基本に、民主的な事業運営を展開します。
３）私たちは、様々な障害を抱えた利用者を、「共に、同じ地域社会の中で生活していく人間」あるいは「共に、仕事を分かち合いながら働く人間」として認め、その存在を「自分と等しく社会の一員である」と認めて接していくために「なかま」と呼びます。
４）私たちはなかまの安全と安心を守るとともに、障害者の自立支援となかま本位の精神を尊重し、誠実な施設運営を展開します。

5）私たちは、なかまはもちろんのこと、職員その他すべての関係者の人権を尊重します。
そして、発達保障の立場に立ち、一人ひとりの「主体性」を尊重しながら、地域福祉の健全な発展に貢献します。
6）情報マネジメントを基本にして、運営面のすべてにおいて情報公開を原則とした透明性のある事業運営を行います。

3、 法人運営

1） 理事会・評議員会

理事会	2021年5月 日	2020年度事業報告案
		2020年度決算案
		監事監査報告
		理事長業務報告
評議員会	2021年6月 日	2020年度事業報告
		2020年度決算
		監事監査報告
理事会	2021年10月 日	予算執行状況
		補正予算案
		理事長業務報告
評議員会	2021年10月 日	予算執行状況
		補正予算
理事会	2022年3月 日	予算執行状況
		補正予算案
		2021年度事業計画案
		2021年度予算案
評議員会	2022年3月	予算執行状況
		補正予算
		2021年度事業計画
		2021年度予算

2） 監事監査

2021年5月初旬～中旬にかけて行います。

4、事業計画

1） 短期計画（1年～2年）

将来的な事業展開に備え、新たな事業用地を探します。良い物件があった場合は、理事長に相談しながら取得に向け進めます。

麦の里・七色の麦の防災グッズは、瀬戸市と協議し、必要な整備を進めます。
麦の里全館LED化（２階2021年度、1階2022年度）
蛍光灯生産中止の状況
パナソニック 2019年3月器具生産中止（ｻﾝﾖｰﾌﾞﾗﾝﾄﾞ蛍光灯は生産終了）
三菱電機　2021年3月までにすべて生産中止
日立　2020年3月生産中止
東芝　2020年3月までに生産中止
パソコン、サーバー（NAS）のセキュリティ強化を実施。専門業者との保守契約締結。（この間保守契約ではなく単発で修理などをお願いしてきた伸システムクリニックを想定。
駐車場整備
軽貨物車の更新（共同募金会の助成決定）
麦の里駐輪場整備

２）中期計画（3年～5年）
2025年までに第2麦の里の開所を目指します。
麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

３）長期計画（5年以上）
グループホーム事業の拡充
生活介護事業の拡充
麦の里大規模改修の本格実施

４）事業計画の繰り上げ実施
緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合がある。
国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

５、地域公益活動
福祉有償運送事業の実施。
麦の里仲間の給食費軽減措置の継続（材料費代1食275円を230円に軽減）。
近隣住民との交流。地域行事への貢献。
七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）

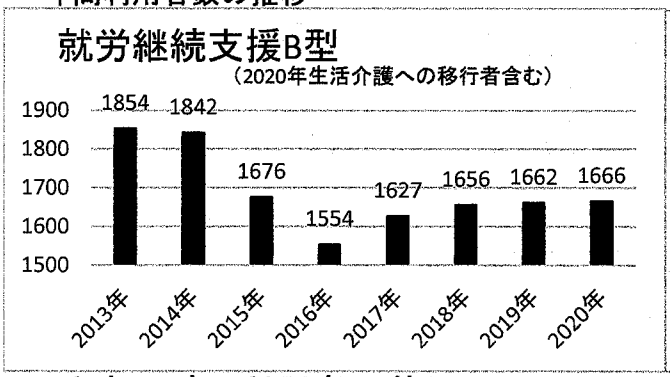
６、人材育成及び確保
研修への参加、資格取得の支援を実施します。
事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。

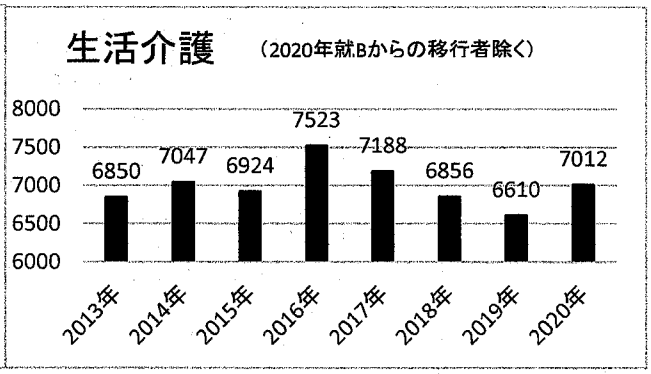
2020年度事業報告（利用実績等）

1、麦の里　利用者の状況

2021.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
中核市	女			1					1
その他	男		6	9	6	2		1	24
県内市町村	女		3	6	2	1	1	1	14
愛知県外	男	1							1
	女		1						1
合計	男	1	6	9	6	2		1	25
	女		4	7	2	1	1	1	16

年間利用者数の推移





2、七色の麦　利用者の状況

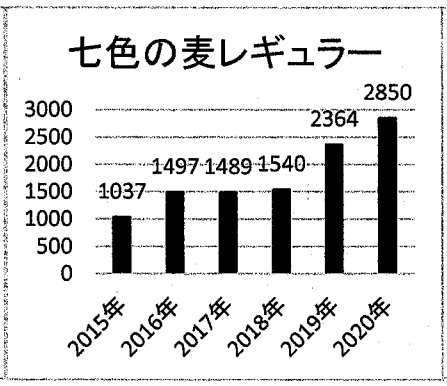
入所メンバー

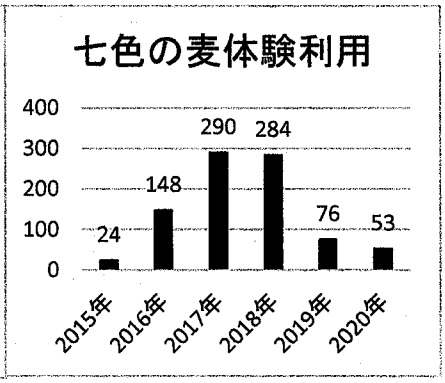
2021.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
中核市	女			1					1
その他	男		1	4	3				8
県内市町村	女		1	1	1	1		1	5
愛知県外	男								
	女								
合計	男		1	4	3				8
	女		1	2	1	1		1	6

体験入所メンバー

2021.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
中核市	女								
その他	男		3						3
県内市町村	女			2					2
愛知県外	男								
	女								
合計	男		3						3
	女			2					2

年間利用者数の推移





3、就労継続支援事業B型麦の里

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	22	19											41

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	7	7											7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	143	124											267
利用率(%)	65.0	65.3											65.1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	3												3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院者数												

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度支援者数	3	3										

(障害基礎年金1級者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数													

2020.5.31現在		瀬戸市	春日井市	合計
利用者の住所地	男	4	1	5
	女	2		2
新規利用者数				
退所利用者数				

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在			1	2	2	2	
	5/31現在			1	2	2	2	

2020.5.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男		2	2			1		5
	女				1		1		2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	7	7											7.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	275	237											512

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	122	101											223

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	7	7											7

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3											0.3
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	0.4	0.6											0.5
職業指導員	0.7	0.7											0.7
生活支援員	0.3	0.3											0.3
目標工賃達成職員	1.2	1.2											1.2
直接処遇職員	2.2	2.2											2.2
事務員													

常勤換算数は、0．1未満は0．1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

4、生活介護麦の里

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	22	19	25	24	19	23	25	22	23	21	21	25	269

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	33	33	40	40	40	40	40	41	41	41	41	41	39.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	610	530	797	741	648	722	772	675	755	668	669	824	8411
利用率(%)	92.4	93.0	79.7	77.2	85.3	78.5	77.2	76.7	82.1	79.5	79.6	82.4	82.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	21	11	20	23	11	17	18	14	21	17	11	18	202

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
入院者数	1	1		3	3	1	2	2	2	1		3	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数	1	1	1	1	2			2	3			1	12

2021.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	他	合計
利用者の住所地	男	18	2	3	1		1	25
	女	7	3	1	1	1	3	16
内新規利用者数		1					1	2
内退所利用者数								

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在			1	2	7	5	24
	3/31現在			1	3	7	5	24

2021.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	1	6	9	6	2		1	25
	女		4	7	2	1	1	1	16

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	29	28	36	36	35	37	36	36	37	36	36	37	34.9

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	1010	836	1330	1246	1093	1264	1357	1193	1348	1194	1192	1472	14535

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	554	460	716	645	556	649	705	624	685	589	585	748	7516

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
入浴利用者数	12	11	12	12	12	12	12	11	11	11	12	10	11.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入浴利用延数	76	69	83	68	68	64	77	63	72	61	68	69	838

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
医療的ケア	吸引(口腔内)	4	酸素吸入	1	服薬管理	16
	吸引(鼻腔)	3	ﾓﾆﾀｰ管理		創傷処置	
	吸引(気管切開)		じょくそうの処置	1		
	経鼻経管栄養		疼痛管理			
	胃ろう栄養管理	4	インスリン管理			
	点滴		導尿	1		
	ネブライザー	3	浣腸			
	気管切開のケア		摘便			

◎　麦の里　◎

◆2021年度(R3)事業計画(案)

《右ページ記載》

&

◆2020年度(R2)事業総括(案)

《左ページ記載》

君の優しさは　君のものだから
取り囲む世界に　ゆだねてはいけない
昨日を今日に　つなげる為に
今日を明日へ　手渡すために

君の悲しみは　君のものだから
取り囲む世界に　ゆだねてはいけない
昨日を今日に　つなげる為に
今日を明日へ　手渡すために

麦の里　２０２０年度（R２）事業総括（案）
２０２１年度（R３）事業計画

《２０２０年度(Ｒ２)事業総括》(案)

II　日中活動の中身を見直そう

【１】☆Aｸﾞﾙｰﾌﾟは作業中心としつつ、仲間たちによる自主的な活動ができるようにしていく。
☆Bｸﾞﾙｰﾌﾟは少しずつ自我が育ってきているので、それらを大事にしながら作業に取り組む。

①Aｸﾞﾙｰﾌﾟは、今年度も仕事中心で活動してきた。コロナ対策でバザーなどの外へ出る機会は減ってしまい、室内作業が多かった。
②Aグループでは新しい内職が増えた。難しい作業内容だったため、できる仲間が限られた。難しい仕事ができない仲間たちは、新たに自主製品作りに取り組んだ。ハサミを使ったり、テープで貼ったりすることが、はじめは難しかったが、回数を重ねる内に少しずつ仕事ができるようになってきた。
③Bｸﾞﾙｰﾌﾟは、外の活動に取り組む人数を絞った。その為、午前か午後かどちらかは室内作業をお願いした。話し合いの上、お互いに譲り合いを基本としてる。「譲り合い」ができなくて納得できない時でも、自分の気持ちと葛藤して折り合いを何とか付けて、譲ることができるようになってきた仲間がいる。また、「明日は行けるよね」と先の見通しを立てることができるようになった仲間もいる。
④A・Bｸﾞﾙｰﾌﾟとも、コロナ対策でレクリエーションに取り組むことはできなかった。けれども、仲間たちの「やりたい事」を仲間の会で聞きとり、土曜日例会活動で、年間を通して仲間たちのやりたい事に取り組む事ができた。
⑤一方で、Bｸﾞﾙｰﾌﾟの仲間たちの「やりたい事」を汲み取ることは難しかった。仲間たちにいろいろな活動を体験してもらえるように、活動を増やしていきたい。
⑥A・Bｸﾞﾙｰﾌﾟとも、定期的な「仲間の会」開催は難しかった。
⑦避難訓練は、規定通り年２回開催。今回は、「麦の里の敷地内からえびすの駐車場まで避難する」という計画。予想以上にスムーズに実施できた。
⑧例会活動は、コロナ対策の厳しい中で、工夫して室内で楽しく活動することができた。
⑨またコロナ禍でも、９月の例会活動で『わいわいバザー(療護ｸﾞﾙｰﾌﾟ)』を開催。コロナ対策で集まることが出来なかった保護者や土曜日出勤できないパート職員その他麦関係者も応援に駆けつけて、予想以上の盛会となった。今後、同じやり方で開催できるか？はともかく、結果として、唯一開催できた貴重なバザーだった。

《２０２１年度(Ｒ３)事業計画》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【１】☆Ａｸﾞﾙｰﾌﾟは作業中心としつつ、仲間たちによる自主的な活動ができるようにしていく。
☆Ｂｸﾞﾙｰﾌﾟは少しずつ自我が育ってきている。
時間は掛かるけれど、話し合いを大切にして、
お互いの気持ちを尊重し合いながら作業に取り組む。

〔短期目標〕
①Ａ・Ｂグループ共に仲間の会の開催日を決めて、定期的に開催する。
②Ａグループの仲間たちは、作業中心の活動ではあるが、クラブ活動のような、自主的な活動ができるようにしたい。そのために、仲間たちの「興味の　あること」や「やりたい事」を日々の活動で知り、共有できるようにする。
③Ｂグループは、作業の順番決めなどでは時間が掛かる場面が多い。
けれども、大切な場面でもあるので、今後も工夫しながら話し合いを持ち、「自己主張」を受け止めながら、「仲間の意見を聴く」姿勢を育てていく。
〔長期目標〕
①仲間の気持ちが引き出せるように、職員主導ではなく、仲間たち自身が主導で話し合いができるように、ケース検討や発達保障の勉強会なども積極的に開く。

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。
☆日々の業務を安定させる中で計画的に取り組みを作っていく。

①これまでは担当する職員によって、「今日は何をしようか？」ということで　1日が終わってしまうこともあった。けれども、年度後半になって前日に　計画を立てて、取り組みを持つことが定着してきている。
②図書館や散歩だけでなく、創作活動、ボカシや紙ちぎり(牛乳パック椅子)などの作業にも取り組む事ができた。
③車椅子ダンスの発表を「成人を祝う会」で行った。
④療護の仲間でのピクニックを予定していたが、計画に至らなかった。
⑤看護師の確保や喀痰吸引ができる第３号研修取得者が、業務に入る体制は整備できなかった。
⑥外部から歯科衛生士を招いて、「口腔ケア」の研修を実施できた。

【3】自分の生活について考えよう。
☆作業以外の場面での配慮が必要な仲間が多く出てきている。仲間たちとの話し合いながら、作業以外のことにも取り組んでいく。

①Aｸﾞﾙｰﾌﾟの仲間の会では、作業の事と、仲間同士の関係の事などがメインの話題で話し合ったが、内容的には昨年度以上に深めることができた。しかし、職員主導という形になることが多かった。
②年度当初から発作の疑いで入退院を繰り返してきた仲間が１名。退院後の受け入れの際にＰＴと連携して「姿勢保持」その他の対応を実施した。また車椅子を作り直す仲間に対しても、ＰＴを交えて業者と相談を重ねる等々、個別に対応することができた。
③仲間たちの定期通院や急な疾患に対しても、看護師を中心に通院補助を実施している。
④１０月頃、新たな仲間を１名、受け入れ実施。
また、昨年度末「コロナ対策」でそれまで利用していた「ロングショートスティ」の利用が困難となり、行き場を無くした仲間を１名受け入れてきた。「強度行動障害」が有る為、受入当初は職員２名体制で２～３時間の受け　入れだったが、回数を重ねる中で仲間・職員双方が慣れ、年度後半には給食も他の仲間たちと一緒の空間で摂れるようになり、麦の里で１日活動できるようになってきている。

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。

☆「食べること」「飲むこと」「排泄」「姿勢保持」そして「入浴」は、安定してできるようになりました。だから・・・もっと新しい「療護」を目指して、活動内容を充実させたい。

〔短期目標〕

①毎日毎日の取り組みを、前日には決めておくということを定着させる。

②土曜日の例会活動の中身については、1年間で計画を立てる。
また、平日の取り組みについては、みんなで方向性が確認できるように、定期的に「仲間の会」を開催して、話し合って決めていく。

③療護の活動内容を、より良いものにしていく為に、職員研修や他施設への見学を実施。もっと積極的に他施設の情報を収集して重度重複障害者の日中活動について学習したい。

〔中長期目標〕

①仲間たちの外出の取り組みには、看護師の同行が不可欠な医療的ケアの仲間もいる。仲間たちの外出の機会を増やすために看護師の1名増員を目指す。又、喀痰吸引ができる介護職員の増員も目指していく。

②「療護職員の主任」が配置できるように、職員体制の改善を目指していきた　い。

【3】自分の生活について考えよう。

☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

〔短期目標〕

①仲間の会を通じて、仲間たち自身の身体のことや生活に関すること、例えば「『健康について』などテーマを決めて勉強会を開いてみる」等々、仲間たちと学習と経験を積み重ねる取り組みをしていきたい。

②PTと連携しながら、仲間の身体のことを個別に相談していく。

③「個別支援計画」を仲間たちと共有する中で、作業以外のことについても話せるように、ひとり1人の仲間と話し合う時間も増やしていく。
合わせて、職員間でケース検討を開催し、個別の生活状況や身体の事なども情報共有し、日常の活動の組み立てに盛り込んでいきたい。

〔中長期目標〕

①仲間たちと、「親亡き後」の生活についても話し合っていきたい。

②「仲間の会」が、仲間たちの自発的な話し合いの場となるようにしていきた　い。

Ⅰ　職員体制の充実

【1】日中活動の施設とホームの安定。業務体制を拡充していく。
【2】新しい施設のために正職員の増員をしていきたい。

①正職員が2名入職(4月に男性1名＝人材紹介報酬制度による。7月に女性1名)。2名とも安定して継続勤務している。2名ともホームの変則勤務が可能で、秋頃から兼務。ホーム職員としても活躍している。
②育児休暇で休んでいた女性正職員が、6月に復帰。
③一方で、ホーム主体で5年間勤務していた正職員(男性)が1名退職。
④ホームの夜勤専従の女性パート職員が1名、1月入職。安定して勤務継続が　可能な中で、3月から七色の麦の「4泊5日」が実現できるようになった。
⑤ホームの仲間たちが慣れてきたこと、職員体制が整ってきたこと、等から11月頃から『体験利用』の受け入れを再開している。
⑥正職員が増えた為、パート職員だけで外の活動へ行くことは無かった。けれども牛乳パック椅子やカード作り、アルミ缶洗い等、パート職員と仲間たちでできる作業は増えた。
⑦長年、毎日の活動の組み立てと職員配置を統括してきた施設長が、病気療養の為、今年度6月頃から通院開始、8月以降は定期的に入退院が必要な状　態となり現場統括を主任3人が挑戦することになった。
夏頃から主任中心で日々の日課や日中活動の中身を組み立てて、職員配置も担当することとなった。3人が協力して体制を相談することで、当日の朝ではなく、前もって組み立てができるようになってきている。
⑧日中のパート職員が増えて、麦の里の日中活動は充足してきている。
また、主任会議を日中開催できるようになった。
⑨今年度は、喀痰吸引ができる第2号／第3号の資格取得者はいなかった。
⑩今年度は、コロナ対策の為、就職フェアには1回も参加していない。

【3】職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。

①今年度は、コロナ対策の為、多くの研修が中止となった。
そのため、リモートでの研修が主だった。
②「強度行動障害者支援」の為の「行動援護支援従事者」研修に2名が参加。参加職員からは好評であった。
③『人間発達基礎講座』に5名が参加。毎年滋賀県で2日間開催の為、参加できる職員は限られていた。けれども、今年はリモートによる1日研修だったので、参加が難しい職員も参加できて好評だった。
④サービス管理責任者の資格取得者は、今年度はいなかった。

【4】今後に向けて業務体系を変えていく。

①昨年度に続いて、A・B・療護に分かれてミーティングを行った。
②日々の連絡事項を、申し送り用のホワイトボードを活用して共有を図った。
③職員の作業日報用紙が簡略化されて、職員の「記録の負担」が軽減された。
④年度末にたった1回ずつではあったが、「七色の麦」「青色の麦」それぞれで　勤務している職員が集まって、職員会議を実施できた。
⑤「麦の里」の職員会議としては、ほぼ毎週金曜日に開催してはいるが、夜勤明け職員が居るため、全員による話し合いはできていない。
⑥「準正職員」が設けられ、パート職員から2名が準正職員となった。

II　職員体制の充実

【1】第2麦の里の建設を目指して、日々の活動を安定させる。

〔短期目標〕

①日中職員は充足してきている為、ホームに関われる職員、特に「早番」「遅番」が可能な職員の確保を、引き続き目指していく。
（ホームページの充実や活用等で、人材募集を掛けていく。）

②『第２麦の里』実現に向けて話し合いを深めていく。職員も確保していく。

③日々のミーティングの中身を深めて、単なる「報告」ではなく、振り返りが　行えるように、ミーティングのあり方、方法を再検討する。

〔中長期目標〕

①仲間たちへのより良い支援の継続・充実を目指して、職員ひとり１人の力量を高めていけるようにしたい。また、チームワークとしてまとまり、より良いチームとなって支援ができるようにしていきたい。

②看護師の増員、喀痰吸引可能な職員の増員を目指し、医療的ケアの必要な仲間たちの活動範囲を広げていきたい。

【2】職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。

〔短期目標〕

①研修の情報を事前に提示していく。たくさんの職員が参加できるように促していく。

②研修だけでなく他施設との交流や見学も行い、日中活動について学習したい。

③「行動援護支援者研修」は、引き続き、積極的に参加していく。

④サービス管理責任者の資格取得者を、引き続き増やしていく。

〔長期目標〕

①「介護福祉士」「社会福祉士」ならびに「第２号／第３号喀痰吸引研修」など　の資格について取得希望の職員を応援していく。

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

〔短期目標〕

①準正職員と正職員の業務内容等の違いを規定としてまとめる。

②夕方の職員の清掃箇所を一部簡略化して、翌日のハウスキーパーへの依頼とする。

③送迎に関して、可能なパート職員の方にも依頼していく。

〔中長期目標〕

①『第２麦の里』の開所を、具体的な日程として年度スケジュールに盛り込む。そのための準備として職員と仲間の配置の変更等の調整を具体化していく。

2020年度　文章総括

1．全体のまとめ

○開所17年目を迎えた「麦の里」の仲間たちは、4月から新しい仲間を受け入れて39名でスタートしました。また、年度途中より、新たに1名加わり、41名となりました。

○新卒の仲間は、ダウン症の男性でとても活発。Aグループの中で元気に取り組んでいます。年度途中に加わった仲間は、40代の男性で筋ジストロフィー症の方です。
以前、通っていた施設では、バリアフリーではないために退所して、麦の里を見学し、通所となりました。

○麦の里は就労支援B型と生活介護でやっていましたが、生活介護事業所となりました。

○グループホームでは青色の麦と同様に、3月から赤色緑色の麦も4泊5日がスタートし、また、青色の麦の開所に伴って中止していた体験利用を11月から再開。

○週4日、自身の成人を祝う会を楽しみに、順調に麦の里で過ごしている。

○40歳代の仲間が1名、けいれん発作により昨年度の2月、今年度の9月、10月、1月と1年で4回の入院。食事の形態も変わって、気をもんだ1年となりました。

○70歳代の仲間も、骨折やヘルニアを経験して1度入院されました。

○昨年度から毎週金曜日麦の里に通い始めているYさんは、半日活動から1日活動となり、他の仲間とも作業ができるようになりました。

○作業活動としては、
◇「ぱん工房」は、7月から新たにパン工房専属移動となった正職員と、
未経験から担当して始めて3年目を迎えた正職員がリードしています。
◇「EMボカシ」「廃品回収」では担当の移動がありました。

○療護グループでは、
◇『車椅子ダンス』がレクリエーション活動として定着。
その中でも日中の活動を前日に計画しておくことが定着してきました。
◇例会活動では定番の映画から、仲間の希望をくみ取って1年間取り組みました。
◇わいわいバザーでは療護の仲間が外に出て活動を行った。
◇例会活動では、仲間の希望をとって1年間取り組みました。

○職員体制の面から振り返ると，
○1年間育児休暇を取っていた女性1名が復帰しました。
○正職員の面では4月に「職員の紹介制度」により男性1名、7月には女性が1名、
6月には男性正職員が1名退職しましたので、1名の増員となりました。
○パート職員の面では、4月に男性女性の各1名、8月に男性1名、
1月に女性が1名、7月に女性パート職員が1名退職していましたので、3名の増員となりました。
その結果、日中での主任会議が定期的に行うことができるようになりました。

★☆★【新型コロナウィルス感染対策に関して】★☆★

1. 感染対策として実施した内容

1)利用者・職員に対する注意喚起として

①手洗い・手指消毒の実施

②うがいの実施

③マスクの着用

④毎朝の検温の実施

2)玄関、各部屋の入り口に手指消毒剤・マスクの設置

来客者に検温の実施、来所者チェック名簿リストに記入してもらう

3)屋内全般の換気を心掛ける

30分に1度、5分間の換気アナウンスの実施

車両で移動する際には、窓を開けるなどして、換気に気を配る

4)「屋外作業」の方法に関しての話合いと対策の実施

①廃品回収等は、人数制限をして出掛ける

②できる限りマスクを付ける

③なるべく手指消毒剤を持っていく等、外出先でも清潔を心掛ける。

5)公共交通機関利用者に対する送迎の保障

2. その他利用者・職員への配慮

▼文章による注意喚起

「自粛休業」に関する紹介

万が一休業した場合の対策の紹介

▼口答による日々の注意喚起

特殊な対策としては、【非常事態宣言】が出てから「公共交通機関」を利用して通所している仲間に対して、感染対策として「麦の里の送迎車両」による送迎を、当初昨年6月半ばまで予定していましたが、現在も実施しています。

Ⅱ、仲間たちの日課と活動スタイル

①1日の日課と活動スタイル

朝の会は3グループに分かれて行っています。Aグループは、一日の予定と、一週間の予定の確認などをしています。Bグループでは、午前と午後の仕事を選んでいます。Rグループは、健康状態と一日の予定を確認します。お昼の報告と帰りの報告は合同で行っています。お昼休みは、各自好きなことをして過ごしています。お昼休み後Aグループ、Bグループの外作業は13時から、Bグループの中作業は13時30分から仕事を始めています。Aグループは、時間を決めて行動し自分たちの仕事をやりきっています。Bグループは、ゆったりと仲間のペースに合わせて仕事をしています。Rグループは、のんびり過ごしていることが多かったのですが、最近ではお仕事や料理もしていて新しいことにも挑戦しています。

（伊藤）

②個別の取り組み

今年度も、個人の車椅子、補装具の修理等、理学療法士の先生と相談しながら取り組んでいます。また、人手不足の中でも、個別の通院に職員が付き添い、対応することができました。

70 代を迎えた仲間は 2 人、個別での通院補助については、これからさらに各々の必要に合わせて支援が必要になってくることと思います。ご本人、ご家族と相談しながら、今後も安心して麦の里に通所していただきたいです。また、人手不足という問題を抱えながらも、この大事な課題にどう取り組んでいくかは今後の課題となります。

（古謝）

Ⅲ、グループ別　活動のまとめ

◎Aグループまとめ◎

1、全体として

今年度は、4月に男性が1人と11月に男性が1人新たにAグループの仲間として加わりました。2人とも作業に仲間同士の関係にと日々、失敗したり、悩んだりしながらも活動に取り組んでいます。

今年度もAグループは、作業を中心に活動してきました。内職作業に自主製品作りや廃品回収・園芸作業などに取り組んでいます。内職作業では、納期を意識し、日々、一生懸命取り組んでいます。「納期に間に合わせるようにできたとき」「出来の良い自主製品ができたとき」「たくさん廃品を運んだとき」「身体をいっぱい動かせたとき」「美味しいパンができたとき」など作業を通じて達成感を感じながら取り組んでいます。

今年度は新型コロナウィルスの影響でレクリエーションは中止となりましたが、例会活動で「やりたいことをやろう」ということで仲間たちはそれぞれ、例会活動を楽しみました。また、今年度は、「作業のこと」や「行事について」、仲間の会で話し合いました。昨年度以上に話し合いができたと感じています。定期的とまではいきませんでしたが、話し合いを重ねたことで仲間意識も深まったように感じています。一方で、仲間の会が、職員主導になってしまうこともあり、「仲間主体」ということがグループとしての課題となっています。

（村松）

2、作業活動について

昨年度末からコロナ禍で仲間の作業に影響が出た時期もありましたが、内職の仕事依頼が少しずつ増え、バザーが中止され売上げが減ると予測されていた炭・カード等の自主製品は物資販売で売り上げを伸ばし、パンも予約販売の顧客が定着し技術の向上を目指した研修を行うなどして作業内容が極端に減ることはありませんでした。新たに自主製品作り、生ごみ園芸を取り組みはじめたこと、内職の種類も増え仲間の作業内容が豊富になってきました。ただ仲間にも得意・不得意があるため仲間の作業内容、負担に偏りが生じています。また、作業する場が手狭にもなってきて作業する環境が整っているとは言えなくなってきました。こういった課題をクリアすることも念頭に今年度も取り組んで行きたいと思います。　（三好）

3、その他の活動について

今年度は、レクリエーションが、コロナ禍によりすべて延期となりました。昨年度に一部の仲間が延期になっていたものの、コロナの影響により外出自体ができなくなり、仲間も残念そうでした。その分、例会活動は、仲間の意見を取り入れて、レクリエーションの代わりとなる様な活動となりました。

仲間の会は、レクリエーションの話ができない分、仕事の話を中心になりました。新しい仕事としてできるかできないかを聞いています。コロナ禍の影響もあり内職が減ってきている分、どうしても、新しい仕事は増やしていきたいですが、手を抜くことはできないので、慎重になります。少しでも、できる仕事を取り入れて、仲間の仕事の幅を増やしていきたいです。　（小林）

◎Bグループまとめ◎

1、全体として

今年度はコロナウイルス対策もあり、外の作業に出る仲間に人数制限をかけるようになりました。外作業を希望する仲間が多いのですが、そういったときは話し合いを基本として、行くメンバーを決めています。譲り合いできない日もありますが、順番で行けなかった日でもそれぞれ、自分の気持ちと折り合いをつけながら、気持ちを切り替えています。近頃は、行きたいときに必ず行けるわけではなく、順番で譲らなくてはいけないのだと、仲間自身がルールを理解してきたようです。

種目数は３種目に分けたいところですが、作業の内容や職員の体制によって、３種目にできない日もあり、実現がなかなかできませんでした。　（大下）

2、作業活動について

今年はコロナの影響でマスク、消毒、換気を十分に行った作業内容により、廃品回収やぼかし納品などの少人数制限で仕事を選び仲間同士が話し合い譲り合いで作業を行いました。
その為少人数による作業で今までよりも一人一人量が増えて、たくさん運べて良かったです。
今までと仕事内容が変わりましたが、混乱することもなく仲間の絆を深めることが出来た一年でした。　（山口）

3、その他の活動について

レクリエーション活動は行っていませんが、仲間の会では例会での取り組みの中身を話し合いました。仲間の意見を取り入れて計画した例会は、どれもこれまでと違って記憶に新しく、仲間達からも好評でした。

（古謝）

◎療護グループまとめ◎

1、全体として

前年度にくらべ、入浴日以外の活動が充実してきた1年になりました。外へのお出かけや例会活動など外出することも増えていましたが、コロナの影響で外出を控えた時期でも仲間との創作活動などを積極的に取り入れていました。

年度中頃に仲間が1人こばと学園に入所することになりました。しかし、ご家族の方は引き続き、麦の里を利用したいという希望が出ています。コロナ対策のため、実現できていませんが、落ち着いたら、受け入れもしていきたいです。

肺炎などで入院する仲間もいましたが今は元気に通えています。

（多良）

2、入浴について

例年通り男性は月木、女性は火金と週2回の入浴に取り組めています。
また、入浴時には身体の状態把握を行い処置が必要だと判断した場合には、ご家族に相談を行い、家族受診が難しい際には麦の里にて受診してきました。
今後も週2回の入浴を進めつつお風呂に入るという楽しみに繋がるよう「歌・玩具遊び・ストレッチ・マッサージ等」を行っていきます。

（北村）

3、その他の取り組みについて

今年度も療護の活動は入浴をはじめとして、音楽や紙芝居、絵本の読み聞かせ、散歩、足浴などには継続して取り組んできました。また長期欠席をしている仲間に手紙のお届けや、
年度の半ばには七色の麦でバザー活動を行いました。普段とは違う環境によって仲間達にも良い刺激になったと思います。活動が多彩になってきている中で、定着していきたい活動を考えていきたいです。

また前田PTが来てくださり、仲間の姿勢・状態についてのアドバイスを頂いています。昨年度から継続している前田PTによる車いすダンスは、約1年をかけて練習し、成人を祝う会で披露することができました。音楽を通した活動によって、仲間たちも表情豊かに参加する場面が見られます。

以前から課題となっていた活動を事前に決めておくことを、年度の後半から始め、少しずつ活動を相談することで、次へとつなげることができるようになってきています。

（栁原）

4、医療的ケアについて

今年度は、医療的ケアが必要な仲間が１名こばと学園に入所しました。麦の里の利用を継続する予定ですが、、コロナで通所できないため、お休みが続いています。

また、胃ろうと経口を併用していた方が、体調を崩し入院。退院後は朝・帰りの定時の吸引と、経口摂取を可能な限りしていたのですが、全てミキサー食の注入になりました。医療的ケアが必要な仲間の状態が日々変化しています。看護師２名を常時配置し、毎日活動していますが、職員も２・３号研修を受け、必要なケアができる体制づくりが変わらず必要です。（川口）

Ⅳ　作業活動について

別紙にまとめました

Ⅴ　行事・その他の活動

1、全体として

今年度も成人を祝う会ともちつき大会を開催しました。今年度は、成人を迎える仲間の親御さんと相談して、寒い時期だと体調が心配されるので、１１月の気候の良い時期に開催しました。結果的には、コロナが比較的に落ち着いていた時期に開催することができました。

例会活動では、仲間がやりたいことに取り組めるように内容を工夫しました。事前に仲間に意見を聞いて、年間予定を組み立てました。療護の仲間たちもバザーを出したり、創作体験をしたりと今までと違った取り組みができています。

バザーはコロナウィルス感染防止対策のため、中止になることが多くバザーに参加する機会は今年度は減りました。しかし、そんな中でも、ＺＯＯＭを通して他施設と仲間たちと交流することができました。今までは重心の仲間たちはあまり遠出はできないので、そいうった場に参加することはできていませんでしたが、ＺＯＯＭというツールを使って、重心の仲間たちも交流会に参加できたことはとても良かったです。

（大下）

2、仲間たちの行事・活動

①餅つき大会

１２月５日に行われた餅つき大会では沢山のボランティアの方、お母様方のご協力のお陰で無事終えることが出来ました。それぞれの作業のチームワークもスムーズで、仲間も１人ずつゆっくり餅をつけて楽しめたのではないかと思います。リーダーである自分も、お餅を余裕がありました。

全体の流れとしては昨年度よりもかなりスピーディー且つスムーズだったと感じました。今年度はコロナ禍でボランティアの参加人数を制限しました。しかし次回は多くの皆さんが参加できるようになるといいと思います。（坂本）

②成人を祝う会

毎年1月に開催していた成人式でしたが、今年度は仲間の体調などを考慮して相談し、日程をずらして11月の開催になりました。コロナ過でしたが、日程をずらしたことによって比較的落ち着いた時期での開催にできました。さらに、前年度よりも余裕を持って、準備を早めにでき、催し物などに力を入れることができました。主役の仲間も車椅子ダンスに参加することができています。コロナの影響もあり、ゲストを交えての会食はできませんでしたが充実した成人式を開催することができました。

（多良）

③各種バザー

今年度は、新型コロナウィルスの影響でバザー活動は軒並み中止となりました。そのような中でも10月に市民活動交流フェスタは感染対策をして開催となりました。今回の交流フェスタは他団体を呼んでの販売活動はなしということでしたが、活動紹介をスライドど流して頂けるということで麦の里の活動紹介はして頂けました

また、同日に「わいわいセール」の開催もあり、これが今年度の唯一のバザー参加となりました。売り上げも例年以上にあり、バザー活動の大切さを改めて実感しました。

来年度がどのようになっていくかはまだ、わかりませんが、バザー活動は地域の方に麦の里の活動を知って頂き、製品を知って頂く良い機会なので続けていきたいと感じています。一方で、どこの団体でもそうですが、今後のスタイルというものは考えていく必要があると感じています。

（村松）

④例会活動

毎月1回土曜日に、麦の会の定例会に仲間の活動として取り組んでいます。今年度はバザーや募金活動もコロナウイルスによってなくなり、例年とは違う活動内容になりました。これまでは、「仕事・散歩・映画」といった活動が定番でしたが、各グループで仲間の会を開き、やりたいことを聞き、年度の半ばから仲間の希望に沿った活動に取り組み始めています。水遊びや藍染め、カラオケ、バザーなど、普段の作業や療護活動とは異なる活動を行いました。活動によってはA・B・療護の仲間たちが一緒になって活動をする数少ない機会となっています。今後も仲間の希望を聞きながら、新しい活動を考えていきたいです。（栁原）

⑤役員会活動

今年度はコロナ渦のなかでも、対策をしつつ役員会を開催しています。人数は２～３人の仲間と一緒に室内のトランポリンやＤＶＤ鑑賞、人での少ない場所への公園で遊ぶ等をしていました。活動自体も仲間に楽しんでもらえることを考えつつ、感染対策をしっかり行い、取り組むことが出来ていたと思います。

（岩切）

３、避難訓練について

今回は麦の里の駐車場への避難では無く、えびすさんの駐車場への避難ということになりました。毎年のことながら事前に仲間に連絡はしていて、療護の仲間は前日に予行演習をしていました。当日には歩行困難な仲間の仕事場近くに車椅子を用意したりして一般的な事例な訓練という印象でした。何時に放送が入り、避難になる訳ですが、麦は幸いに津波の心配は無いと思いますが、大地震、火事、山崩れにより施設の倒壊はあり得ると思われます。そんな時、停電の可能性もあり（エレベータでの避難はNGになっていますが）麦に自家発電は無いため、放送自体使えるのかどうか、検討が必要です。

専門家も交え、試行錯誤しながら避難訓練をする施設もあるそうで、麦の里の避難訓練の方法もまだまだ工夫の余地がありそうです。（谷口）

Ⅵ、施設運営について

１．全体として

コロナ禍の年でありながら、麦の里は、世代交代の年となりました。世代交代については、主任職員への職務分担が進んだのはとてもいいことでしたが、まだまだ毎日の繰り返しに追われていいます。施設職員の増員に一定のめどがたって来ましたが、職員間の力量のばらつき、職務分担のアンバランスさが問題になっています。

とはいえ、多くの職員はやる気を出してくれており、日中施設とグループホームの兼務体制を維持しつつ、第２施設を展望するところまで来られたといえます。

２．利用者数について

コロナ禍の中でも、元気に４０名の仲間が通ってきていました。４月に新卒の仲間が加わり、１１月に他施設からの移籍がありました。また、コロナ禍の余波で、ロングショートを使えなくなった障害者について、親御さんが２４時間一緒にいるのは大変だということで、週に１回ですが昼間に受け入れることとしました。

他方で、他施設に宿泊しながら、昼間に麦の里を使いたいという仲間が２名います。こちらもまた、コロナウィルス対策のため、外には出せないということで、麦の里には来られませんでした。

麦の里も手狭になってきてはいますが、それでも４２名の在籍で元気に新年度を迎えています。

３．職員体制について

麦の里の開設以来一貫して施設長を務めてきた職員が大病をしたために、一気に役割分担と責任分担が変わりました。今まで、施設長に集中し過ぎていた職務と権限を、今回の病気を奇貨として、若手の主任３人を中心に、分担していくことになりました。また、ホームの責任者も、副施設長が担うことになりました。

組織化それ自体は長年の課題でもあり、それが一気に進んだことは、今年度の大きな成果と言えますが、それに伴う問題点もいくつか浮かびあげってきています。とりわけ、職員の任務分担が偏っていることが問題となっており、年度当初より取り組むこととしています。

４．事務部門について

パートの事務職員が２名入職し、日常の業務は随分とお願いできるようになってきました。毎月の集金業務なども安定してきています。ただ、施設長のお休みが続く中で、事務職員に対する指導が理事長に頼り切りになり、結果として、事務の体制と、施設長の現在の職務分担とに隙間ができており、新年度の課題となっています。

５．新施設について

理事会等でも、第２施設建設に向けて、土地取得を進めることが確認されています。何件かの候補を理事や主任で検討はしましたが、条件が合わなかったりしたために、土地取得には至りませんでした。新年度も精力的に取り組むことが求められます。

（渡邊・稲垣）

2020年度　仲間三行総括

《A グループ》

TM・A

今年度より週4日通所しています。とても人懐っこい性格で自らすすんでコミュニケーションやスキンシップを求めてきます。力加減や言葉のやりとりが上手くできず、もめてしまう事があり見守りが必要です。仕事には初めての仕事でも意欲的に取り組んで組んでくれています。缶作業は準備・片付けはほぼ一人で行えるようになりました。まだ仕事のペースをつかめず前半飛ばしがちになったり、午後の作業では疲れが出て集中力が続かないこともあります。手先を使った作業は苦手ではありますが、いろんな作業に挑戦してもらい、Tさんの得意なことを見出し活躍してくれることを期待しています。　（三好）

M・KT

年度後半より麦の里に通っています。筋ジストロフィー症の仲間です。中作業が得意でモノを作ったりするのも好きとのことで主に「カード入れ」や「牛乳パックいす」「炭作業」などを作っています。慣れない中で、どのような作業でも嫌がらずに意欲的に取り組んでくれています。作業を覚えることで精一杯ですが、これから仲間・職員との関係づくりが大事になってきます。　（村松）

R・K

今年度もパン集計や、物資の入力等のパソコン関係の作業に積極的に取り組んでもらってます。本人もめげてしまうときもありますが、周りの人からも応援されて頑張って作業をやり切ってます。最近は、歩行に少し不安感があり、少しの段差や坂などで職員の手を借りる場面が増えてきています。歩行する機会も少ないので、彼の動きを見守りつつ、できる範囲で機会を増やしていきたいです。また、仲間たちの仲裁役や話し相手にもなってくれ、話の中心にいることも増えてきています。　（岩切）

KN・K

内職を中心に頑張っています。手先が器用で、製品の紙包み作業は、丁寧に早く進めてくれます。和紙切り作業は職員でも真似できないほどきれいにやっています。感情の波が激しい日は、集中力が切れる事もありますが、内職作業では中心的な存在です。キーパーソンが居ないときでも、他の職員とでも頑張って過ごすことができていました。　（修）

S・KD

小柄でダウン症、心臓疾患があり酸素の吸入が必要であり、麦の里ではパン作業担当なので常時の酸素吸入は困難で朝・昼・夕方と30分程の吸入で対応しています。グループホーム七色の麦の利用者で七色の麦では酸素吸入機で常に吸入してもらっています。気分に波があり、集中力もムラがあるが愛嬌は良く、職員を含め話しかけてくれます。疾患とどう向き合っていくか課題です。　（友行）

TS・S

年齢に伴って足腰が弱くなり、歩行が昨年度よりも不安定になってきました。今年度後半から杖を使って館内を移動しています。冬に自宅前で転倒し、腰椎を圧迫骨折。コルセットを着用しています。また、鼠径ヘルニアので手術もしました。

夏場には、熱中症になることもありました。自宅にエアコンを付けてもらったり、麦の里でも経口補水液を作って飲んでもらうなど対応しました。今後、ご本人のやりたいことを続けていくため、どのようにサポートしていくかが課題です。お姉様と2人暮らしで、2人ともご高齢であるので、今後も体調や生活のことを注意深く見守っていきたいです。　（大下）

Y·T

朝、麦の里に来てホワイトボードを眺めていますが、悩む姿は減ってきています。自分の中でしっかりと折り合いをつけられるようになってきていると感じます。報告会に出られるようにもなり、また、廃品回収の順番などを仲間の会で話し合ったときに他の仲間の不満が聞けるようになったりもしてきています。少しずつ、仲間同士の関係もできてきたように感じます。（村松）

T·T

パン作業中心の仲間です。去年から中心になって切り分けなどの行う事になり、それは続けていて、とても他のパンの仲間には頼りになる存在です。しかし、最近は昨年以上に腕や腰の痛みを訴える事があり、あんぱんの中に入れる餡や、カスタードクリーム作りを他のパンの仲間に頼る事が多くなりました。体調面でも一時期、高血圧等でめまいもあり、作業量を減らす事もありました。これからも、無理なく作業を行って頂きたいです。
パンの作業の無い火曜日は内職作業で能力を発揮しています。しかし、北山団地の廃品回収やパンでも納品には行かない、と拒否される事が多くなりました。しかし、パンの材料の買い物には行くので外に行ける機会は維持していきたいです。（小林）

K·N

マンツー対応の仲間です。今年も内職と自主製品作業を中心に取り組んでいます。その中でも特に、苦手だったハサミが上達しました。初めは、K さんが切った後職員が切り直すという形でしたが、何度もやるうちにコツを掴み、切り直しも自分で出来るようになりました。また、パニックの中身も変わってきていて、本人なりの理屈がハッキリしてきているので職員がもっと理解できる様にしたいです。今後も本人が自信を持って出来る作業を増やしていける様にサポートしていきたいです。（萌）

H·H

仕事の面では責任感があり、新しい仕事に対しても積極的に取り組む姿勢が見られます。身体の面では、進行性の病気による転倒の不安から歩行器の使用を継続しており、使用時間も以前より増えています。歩行器を使うことで、転倒は減っています。ただ外仕事においては、杖を使用して仕事に取り組んでいます。雨の日は地面が滑りやすく転倒の恐れもあるため、今後は送迎体制についても検討していきたいです。また体重増加も見られることから、看護士とともに本人と話し合い食事量などを見守っていきたいです。（栁原）

N·M

今年度はコロナ渦ということもあり、電車通勤から送迎に変更しています。炭や生ごみ園芸等の力仕事を中心に頑張ってもらってます。新しい作業にもチャレンジしてもらい、ミヤトーのタオルのたたみなどの作業にも意欲的に取り組んでもらってます。本人も責任を持って仕事に取り組んでいるので、新しく入ってきた仲間に対しては、「やる気がない」等の厳しい意見を職員にぶつけることもある。そうした厳しさも大切にしていきたいです。（岩切）

K·M

マンツーマン対応の仲間ですが、限られた職員だけでなく他の職員との対人関係でコミュケーションでの取り方を自身なりに考える様になったと思います。
パンの作業に入る時も含め、こだわりが強い日があったり、パニックする事もありましたが、前年度に比べると、落ち着いてきている様に感じます。
特にパンの作業は、前年度と比べると、一度、作業から外れても、戻ってきて再び作業に入る、という時間が増えてきました。
様々な作業でも少しずつ、ペース配分が自分でもできているので、このまま継続して頑張って欲しいと思います。（小林）

N·M

作業を中心に頑張っています。ハサミで不織布を切るなど単純作業はわかりやすいいうで自信を持って取り組めています。表情もよく取り組めることが多いのですが、同じことをやり続けると疲れてきて興奮してしまうという側面もあります。そのような時には、バランスボールやトイレに行くなどして落ち着いてもらいました。また、自分から「休憩したい」と言ってくることが少しずつ増えました。自分で区切りをつけられることが課題となっています。（村松）

H·Y

年度初め腰痛で長期お休みすることがありました。家で転倒し腰を痛めたり、体の不調を感じお休みすることが多く通所が安定しません。年々身体が硬くなり本人も左半身の動きが悪くなったと自覚しており介助を必要とする場面が増え、送迎を利用することになりました。そんななかでもパン集計の仕事に対する責任感は強く、パン集計の仲間が見やすく書き込みしやすいように集計表を作成して提案をしてくれることがありました。また、生ごみ園芸に挑戦し、作業道具の買い出しの外出を楽しみにしていると話してくれています。Yさんにとって仕事が麦の里に通所する意欲につながっていると感じています。（三好）

YK·Y

パン作業が中心で包丁使いはとても上手です。グループホーム青色の麦の利用者であり、世話好きで料理が好きなようで腕を振るってくれています。体形がよく、力もあるので本人も「もっと力仕事がしたい」との訴えがあるのでパン作業仲間の編成をし、希望に答えてあげたいです。

（友行）

《B グループ》

TK·A

朝の会が始まる前に、カードを持って仕事を何にしようか迷いながら決めています。司会の日は、机の周りを動き回って仲間を当てています。また、AからBに変わり朝のオエオエするのは減りましたが発作の頻度は変わらずでした。去年から週 2 回外の作業に参加しています。体調を見つつですが金曜日は安定して出れています。いつも車の助手席に座り運転の真似をして楽しんでいます。今後も体調を見守りつつ、本人がのびのびと作業出来るように見守っていきたいです。

（萌）

E·I

朝は眠たいことが多く、作業中は寝てしまうこともありますが、ご本人が好きなものの話をしたり、作業に興味を持ってもらえるように工夫をしてきたこともあって、以前よりも仕事に向き合える時間が増えてました。身体が硬くなってきているので、PTとも身体のことを相談していきたいです。

（大下）

A·U

朝、階段を上っていくと「来た来た一、おはよう」と来た人の足音を聞き分けつつ大きな声で迎えてくれます。またくしゃみをすると、さっとティッシュを出す優しさを持っています。朝の会で選んだ仕事が他の仲間と被った時に、他の仲間に譲れるようになってきたのは成長かなと感心しております。そんな A さんの行動をこれからも見守っていきたいと思います。（坂本）

M·KJ

いつも朝の会で、「今日の司会誰ですか？」と聞くと〇〇さんだよ！と教えてくれます。仕事は、午前が中、午後は外と自分の中で決めている様です。作業中は、とても集中していて静かですが、他の仲間が話しているのをよく聞いているのか、突然笑い出すことがあります。また、チャレンジ精神が旺盛で新しい事にも興味が持て色々な事にも挑戦してくれます。これだ！と決めると中々譲ってくれない事もありますが、最近では、「いいよ！どうぞ！」と言って譲ってくれる様になりました。譲れると皆に報告していて褒められると嬉しそうにしています。（萌）

S･KT

廃品回収を中心に外仕事に取り組んでいます。昨年手に力が入らないことがありましたが今年は特に問題なく順調に廃品回収を頑張ってくれています。また、手の動きの発達に繋がるよう室内作業でボカシのニューズ入れや缶つぶしにも取り組んできました。

今年度は新しい仲間と廃品回収に仲間2人、職員2人で 1 ～ 2 週間に1度出かけて作業を行っていますが特に仲間の事を気にすることなくそれが相手側には良い関係性で作業をすることが出来ています。（北村）

Y･KM

言葉数はさらに増え、テラスのベンチを落ち着ける自分だけの居場所として確立。干してあるボカシの上で寝そべっていたり、対応する職員によって違った対応を見せるようになり、これまで蓄えていた自分の思いや感情が、言葉、行動として麦の里で溢れています。作業ではどこにでも「はい！」と言ってついて来ていましたが、今年度は「やらない！」「行かない！」と言ってしゃがみ込み、自分で折り合いをつけながら作業に取り組んではいるが、意固地になる場面が増えてきています。問題行動にも捉えられていた場面は大事な自我の芽生えだと認識されてきて、受容的に本人の思いを受け止めています。摘み取らないように、職員や仲間で共有して大事にしていかなければいけません。

一日に何度も笑ったり、時々怒ったりと感情を表出できるようにもなっています。（古謝）

KU･K

朝の会では、終わりまで参加できるようになってきました。また、司会になった際は、K さん本人も参加出来ているように見受けられます。今年度から食事の際は、自分で食べる事を始めてもらいました。段々と上手に食べれるようになってきており、今後とも見守っていきたいです。（坂本）

M･KK

食後にいく定位置のベンチ、通称「太陽」では、横を通り過ぎる際に声をかけると、身体を揺らしながら笑って答えてくれます。また太陽からトイレ行く時に、1人で行くよう促す機会を増やしてもらいました。最近ではコロナがきっかけで外と中を選んでもらう様になってから、自分から「午前は中で、午後は外だよね」と言ってくれます。ベテランになる彼ですが、いつもの習慣を大事にしつつ、少しずつ新しいことに挑戦しています。（坂本）

KS･K

昨年のように入院が必要な状態にはなりませんでしたが、飲み込みの状態を変わらず注意しています。本人の反応については、まずまず復活し、元気に毎日を過ごせています。（多良）

A･S

作業をする前に準備運動をして、手先を動かします。以前はシーラーとニュース入れ、日付や番号を書く作業もやってくれましたが、今は細かい線引きやハサミを使うこと等も出来るようになりました。今後とも成長が楽しみです。（山口）

A･M

水に触れる感覚が好きで、いつも洗面台に出掛けて自分で服に水を掛けています。缶部屋、食堂、作業室の洗面台に一人で向かって歩き、自分では水の出し方を知らないようで、誰かが蛇口のレバーをあげて水を出してくれるのを何度も振り返って待っています。満足するまで離れようとしませんが、気ままに行って周囲が水道を禁止することもないので、こだわる回数は減っています。

変わらずに昼食後は、決まった仲間の手を求めて握って過ごし、朝の会では居眠り出来るようになっています。（古謝）

T･M

思いやりから周囲にも気を配って、職員の冗談に笑っています。作業場面では手元に集中しています。休憩時には、テレビ番組や、天候の話題を提供するようになり、職員とのお喋りを楽しみながら場の雰囲気を盛り上げてくれています。

また、けいれん発作との診断から、今年度はコロナ禍の 9 月、10 月、1 月と 3 回の入退院となりました。調子がなかなか戻らず、言葉かけへの反応が鈍くなっているように感じます。体重も減り、ポータブルトイレは改良中です。それでも、皆に心配され見守られる中で、元気な時には時にはみんなの囲気を変わらずに盛り上げてくれます。（古謝）

K･Y

B グループの作業を中心に取り組んでいます。本人の好きな作業は集中してやってくれます。苦手な作業は「もうやめとくわ～」と作業を続けることができない時もありますが、職員の声かけに応じて作業に戻ってくれる事が多くなっています。

最近は足腰が少しずつ弱くなっているのが心配です。今後は、外作業の回数を増やし、
足腰の強化に繋がればと思います。（修）

YS･Y

新型コロナウイルスの関係で、今まで利用してきた短期入所の利用が困難になり、 3 月から麦の里で週に三回、登所することになりました。最初の内は、麦の里にきても、彼の不安感や何をするのかが分かりにくいといったこともあり、滞在時間はもって 5 分程度と言ったこともありました。職員、保護者共にどのようにしていくかを相談しつつ、本人にも粘り強く登所を続けてもらいました。

結果、 5 分滞在することから、30分、半日、一日と彼のペースに合わせて、麦の里で過ごしてもらえる時間が増えてきました。作業も、廃品回収や缶の回収などを 2 ペアではありますが、他の仲間と一緒にすることができています。現在は麦の里を利用するのは週に3回、うち一回が一日通して活動する日になっています。今後も世間の状況や家庭の事情、そして本人のできる力を信じて、彼がのびのびと世界を広げられるような活動が出来るように、みんなで相談していきたいです。

（岩切）

《療護》

J･I

月に1回ほど大きな発作があり、ご飯が食べられず嘔吐してしまうことがあるそうです。1ヶ月の間に体調に波があり安定しないとのことで、今年度も一度も通所できませんでした。（大下）

S･K

今年は成人の仲間入りになりました。身体も女性に近づいている様子です。体調不良でお休み、入院することなく元気に通所することができています。

少しのゼロゼロは横寝、うつぶせ寝で、不随意は抱っこで落ち着いています。
冬は不随意・発作が続き、体調が崩れましたが今は落ち着いています。できるだけたくさんの活動に参加し、楽しい時間を過ごしてもらいたいです。（川口）

Y･KT

今年前半より、入所施設に入所しました。とはいえ、昼間の活動については、麦の里の利用継続を希望されています。市役所との話し合いでは利用継続が決まったのですが、コロナ禍のために入所施設から外出ができない状態が続いています。（多良）

T·K

毎年のように悩まされてきたじょくそうと頭皮の肌荒れでしたが、今年はじょくそうが大変いい状態でした。洗浄を続けたことの効果だと思います。頭皮についても、洗剤を変えることで、大変によくなってきています。（多良）

E·K

最近では声を出して、何かお話をしているように感じられます。職員が大好きでニコニコしたり笑ったりと、職員によって色々な反応が見られます。また牛乳パックのチラシをちぎったり、クシュクシュとしたり少しずつですが物に触れることにより変化が出てきています。（山口）

TK·S

体調不良でお休みすることはなく、元気に通うことができています。一時、歩きが悪く心配することがありましたが、今は調子も戻り、よく歩いています。作業室でのチラシちぎりは意欲的で仕事によく向かっています。（川口）

M·T

今年度は体調を崩すことが多く、入院もしました。夏の肺炎での入院後、給食はミキサー食の注入になり、大好きな経口摂取はできなくなってしまい、変化の大きい1年となってしまいました。定時吸引も始まりました。楽しく参加できる活動を増やして過ごしてもらいたいです。（川口）

N·T

普段はとてもクールな感じですが、大好きな音楽が流れるとリズムに乗り楽しそうに手やピアノをたたいて全身で喜びを表してくれます。また、体調が安定してきた為か、食事を全く食べてくれないというようなことはほとんどなくなりました。（山口）

T·N

4月 20 日肺炎にて入院され 5 月 12 日退院していますが、入院中に角膜剥離による治療とコロナ自粛により 6 月 21 日まで自宅療養されています。6月 22 日より登所が出来ており、登所後は角膜治療のため麦でも 1 日2回点眼を行っていました。
長期の自宅療養でしたが登所後は健康状態安定して毎日を過ごせています。

活動は仲間みんなと一緒に行うことが大好きで特に車椅子ダンスを頑張っていました、成人式での発表をすることも出来ています。（北村）

G·H

今年度は、以前は多かった熱発も減り、体調も安定して過ごすことができています。年度の初めにお父様が亡くなられたときにも、ホームを利用してお別れをすることができました。調子の良いときには、表情も良く、よく目があうことや、指で枕を弾くことも多くありました。（栁原）

R·Y

昨年度から月に 2 回の利用になりました。しかしコロナウイルスの流行により、今年度は 1 度も通所することができませんでした。（栁原）

R·W

歯科入院時に麻酔での体調変化があり心配の声がありましたが、その後すぐ体調も回復し通常登所ができています。

日中の活動時床に降りて過ごすことは継続しており、Rさんから仲間や職員に近づき「遊ぼう」と関わりをもとうとすることもあります。しかし、相手を呼ぶ際に肩やお尻をパンパンと力加減が難しい場合もある為近くで見守りを行っています。（北村）

2020年度　作業別3行総括

◎内職作業◎

○アイシン

今年度は廃棄を中心に作業を頂けました。コロナ禍もあり、中国からの受注も減る中でも、お仕事をいただくことができました。特に廃棄の作業は、Bの仲間も幅広く取り組むことができ、彼らのペースでやれるありがたい作業になっています。

今後コロナが落ち着くにつれ、受注量が上がっていくことを期待しています。

（岩切）

○カネ三

干支の陶器の紙包み、箱入れ作業やハガキ、屏風の袋入れなどの内職作業を頂いています。納期が近づくと職員の声かけに応じて仲間の方達が協力してがんばってくれます。今後も納期を守り、丁寧な作業をやっていきたいと思います。コロナ禍の影響で、仕事量が減ってはいますが、今後とも大事にしていきたい作業です。

（加藤）

○ミヤトー

コロナウイルスの影響もあり、年度の半ばまでは仕事の無い時期が続きました。しかしそれがきっかけとなり、以前は挑戦していなかったタオルのたたみなどの新しい仕事に取り組み始めることになりました。それにより請け負うことのできる仕事の種類も増えています。初めのうちは慣れるまでに時間がかかることもありましたが、今では安定した仕事の量をこなすことができ、急な依頼にも対応することができるようにもなりました。今後もより良い仕上がり、請け負う仕事の量の安定を目指していきたいです。

（栁原）

◎自主製品◎

○パン

今年度は、コロナ禍により毎週木曜日にやすらぎ会館で行われる木曜市をはじめ、バザー・イベント等の販売自体が中止、また激減してしまった為、外での売り上げが減少してしまう一年となりました。

長年、パンに携わっていたパート職員が退職した為、7月より一名、新しく正職員がパンに携わり、サポートを中心に入りとても助けられています。

せとぶれんどとの協力のクッキーの注文、萩山保育園からの注文はコロナ禍等による一時期の現象がありましたが、麦の里内部での売り上げはメロンぱんなどの菓子パンを中心に売り上げが増えました。

また、10月から12月まで計4回、仲間のモチベーションの向上や、新メニューのヒントを得る為に、パン教室の研修も仲間と受講しました。特に普段作っているパンの成形の苦手な部分の見直しをした際、その後、仲間も意識していきミスが減っていったのは、とてもプラスになったと感じました。更なる売り上げを目指す為に、この教室で得た知識や技術を活かしていきたいと思います。

（小林・谷口）

○パン集計

仲間たちだけで作業工程の確認しあい作業をすすめることを目標に取り組んできました。作業工程表を取り入れ終了した工程にチェックし作業のすすみ具合、取りこぼしがないか、次の作業予定の確認などを行いました。また読み合わせを二重三重に行いミスを減らしてきています。ミスがあった時仲間同士で振り返る時間を設け次回に気をつけること工夫することを考え確認しています。職員が入って話の折り合いをつけたり、作業の整理をしなければならなかったりと一進一退ではありますが、仲間同士で報告・連絡・相談することで仕事に対する責任感が向上してきています。

（三好）

○自主製品づくり

以前から自主製品に力を注ぎたいとの話が出ており、コロナ禍で仲間の仕事が減ったことがきっかけで取り組みはじめました。牛乳パックを再利用して、ICカード・スマホケース・
メガネケースの作成。台紙からおこして仕上げまで一通り作ってもらい、仲間の得意、不得意の工程を見極め分担して作成するようすすめています。納期のある他の仕事が入ってくると作業時間が取れず、販売できる商品の完成までには至りませんでした。今年度はバザーでの販売を目標に取り組んでいきたいです。

（三好）

○炭作業

今年度は、新型コロナウィルスの影響があり、バザーが軒並み中止となり売り上げの主は物資販売でした。そのような中でも仲間たちは、「竹取り」「加工」「炭焼き」「製品作り」に取り組んでいます。加工作業は仲間たちが身体を動かす良い機会となりました。製品作りは、製品作りメインの仲間たちで取り組むことで精度もあがり、できることが増えてきた印象です。

昨年度は竹取りに行けませんでしたが、今年度は、数回でしたが竹取りに行きました。久しぶりに身体を動かして仲間たちの表情も良く、良い活動となりました。

来年のバザーはどうなるかわかりませんが、物資販売を主として取り組んでいきたいと思います。

（村松）

○カード・爪楊枝入れ

今年度は、物資販売で「なす・にんじん」の爪楊枝入れを新商品として販売しました。昨年度より何度も作って精度もあがってきました。同時にその他の製品も「工程を忘れない」ように取り組んでいます。また、今年度も大量注文を頂きました。来年度に向けて制作していきます。　（村松）

○ネコミミ

今年度は昨年度の残りが203匹あったことから、約400匹作ることを目標としました。近年の外注の減少、他作業所の作る個数の増加により、作る個数を減らしたことから、作業の回数が減りました。それでも長年続く作業であり、長期的な作業にしたことから、工程をしっかりと覚えており、作業の仕上がりも安定していました。

しかし年度の初めに、コロナウイルスによる招き猫祭りの中止が決まりました。そのため、今年度作る予定の分の作業を途中でやめ、続きを来年度に回すことで来年度の作業の確保をし、作業を忘れないようにと配慮しました。来年度に作る分は少ないものの、ABグループで作業を分担しながら、完成をさせていきたいです。　（栁原）

○牛乳パック

今年度は、コロナウイルス感染防止策のため、バザーが中止になったこともあり、販売が心配されました。しかし、物資販売で商品を出すことができて、売り上げも例年と変わらず販売することができました。

制作の方は、六角形はＡ組が中心、正座イスや長方形はＢ組が中心で取り組んでいます。Ａ組の仲間たちも繰り返しやっていくうちにハサミの使い方が上達してきました。今年度は、療護組も全員でチラシちぎりをして、中身に詰めるものを作る時間もあり、みんなで取り組むことができました。

長年、最終工程の縫製作業をしてくださっていたボランティアさんが縫製を続けることが難しくなりました。今後の縫製作業をどのように続けていくかが課題です。

（大下）

○ＥＭボカシ

ボカシ作業にはA組とB組が協力して作業をする仕込みがあります。昨年変更したＢ組の１人あたりの力量によって仕込む量を半分にするという事はそのまま継続しています。Ａ組の中には希望によって一箱ないしは二箱仕込む仲間もいます。仕込む量は減りましたが、なんとか時間内に終えることが出来ています。

しかしながら、仕込む量が減った事で、納品がぎりぎりになたっり、お待たせしてしまうことが何度かありました。これは今年度の大きな反省点です。

現状は、在庫確認や納品予定をこまめにチェックして慌てずに作業を進めていくことが課題で、さらに、新年度は、仕込む日数を増やしていきたいです

（坂本）

○生ゴミ園芸

B 組から始めた生ゴミ園芸作業は、主に A 組の作業となり、生ゴミからできた土の販売は中止。収益につながる園芸が始まり、職員と仲間で約 3 か月かけて、恵比寿の駐車場には大きな生ごみ処理場を掘っています。スロープ斜面の手入れから始まった園芸は、駐車場、貯水池、スロープ清掃、発泡スチロールの中で育てた野菜の販売へと幅を広げ、野菜の収益としては約１４，０００円。夏場には希望者で水やりを当番制とし、作物の育ち方や収穫のタイミング等を学んでいます。また、園芸を希望する仲間も増え、仲間によって作業の中身を変えています。また、収穫した作物は無人販売としとしていましたが、仲間と販売する時間も設けたいと考えています。

今年度はさらに収益をあげて、仲間の給料アップにつなげたいと考えています。

（古謝・伊藤）

◎廃品回収◎

○アルミ缶

コロナの影響で缶集めも例年より控えめで月一回程作業をしました。晴れていたら、毎週金曜日に変更になりましたが、保護者や地域の方からも沢山缶を頂いて集めることが出来ました。缶集めをしてから、洗って潰して袋入れしています。納品は月一回程いけています。

（多良・山口）

○廃品回収

7月より、担当が変更。日々の作業を組む担当職員は苦労していますが、仲間は楽しみにしています。仲間10名で出かけることもあった廃品回収は、コロナ渦により4～5人と制限が定着。毎回アルコールを準備して、マスクをすることが習慣となっています。

廃品回収時に持ち出すアルコールを管理ノートに記入し持ち出し、紛失予防に努めています。また、中洞の環境を整え看板の作成、新聞、厚紙を整頓しやすいようにサンテナに入れるようにしたところ、新聞や紙袋に拘りが強い仲間にも整頓されたことで落ち着きを保てるようになっています。これから廃品回収をさらに拡大していけたらと考えています。

2019.4～2020.2合計231,602円　（古謝・北村）

◎その他の作業◎

○物資販売

本年度より、麦の会の物資販売を、麦の里が主となって行うことになりました。販売自体はお母さん達ががんばってくれて、仲間達は、注文票の打ち込みや配達に携わりました。注文を取りまとめる事務作業を職員が担うことになりますが、売上も大きく、何よりも長年麦の会を応援してくれるお客さんがいらっしゃることから、大事な作業を引き継いだと思っています。

（稲垣）

○物資の学校販売

今年度もコロナ禍の中で、たくさんのご協力をしていただきました。新しく一校、瀬戸つばき特別支援学校も販売活動に協力をいただき、昨年度よりも売り上げは上がっています。コロナ禍で人数制限や販売方法も先生方と相談しつつ、仲間たちも感染予防をしつつ、販売活動を行えています。

（岩切）

○機関紙作業

・封筒シール貼り

主にBグループでやっている作業です。封筒に点線を入れ目印にし、職員と一緒に貼ってもらうことで、シールを貼り直すことが減ってきました。仲間も職員も作業に慣れてきています。

・丁合・折り

仲間の作業では950部仕上げています。A3、A4の枚数で出来るペースが変わりますが仲間が慣れてきたこと、作業数を増やすことで郵送分が間に合うように作業しています。ペットボトルを使うことによってしっかり折り目をつけ、洗濯ばさみを使い、ずれを少なく完成させてくれています。療護の仲間にも手伝ってもらうこともあります。

・三つ折り・封入れ・封閉じ

主にAグループでやっている作業です。前年度は2日に分けての作業でしたが今年度から内職などの兼ね合いもあり、少人数で数日に分け、710前後仕上げています。三つ折りなどは裏面に目印になる線があることでしっかり折ってくれ、封入れ、封閉じは慣れている作業のため早いペースで仕上げています。

・原稿チェック

今年度から取り入れた作業です。仲間に印刷前に原稿のチェックをしてもらい、誤字、脱字などを探して印をつけてもらいます。担当が作業を入れ忘れることが多かったですが仲間は楽しみにしてくれています。

（多良）

○かやふきん

今年度はコロナ禍もあり、バザー等での販売はほぼありませんでした。作業の頻度としては物資販売の前に、数コマB組を中心に行っています。リピートして購入してくださる方もいるので、在庫を確保しつつ、コロナが収まり次第、外部の販売に力を注ぎたいです。　（岩切）

2020(R2)年度　事業総括

共同生活援助事業　七色の麦

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

①赤・緑・青色の麦の仲間の個々の生活リズムを安定させたい

・赤・緑色の麦では、新たなメンバーを迎えて２年目となる。特に新しいメンバーに関しては緊張感もある様子。体調面の様子を見ながら慣れていけるように生活リズムを整えていきたい。

→年度途中より、体調面で不安を抱える仲間が１人、泊まらない月もあり、安定しませんでした。全員が揃うことは少なかたのですがが、他のメンバーは、概ね安定しています。体調面で不安を抱えている仲間に関しては、本人の体調を見ながら少しずつですが、泊まれる日を増やしていき、慣れてもらいたい。

・青色の麦は、寝不足の仲間がいたりと安定しきれていない仲間もいる。個々のペースに合わせてリズムを安定させたい

→今年度は、２年目となり、睡眠に関しても安定してきた。生活リズムとして仲間たちは、安定してきた１年でした。

②赤・緑色の麦の４泊５日の実現と青色の麦の４泊５日の継続

・赤・緑色の麦は、まだまだ３泊４日を維持したい仲間もいる。職員体制を整えることができたら４泊５日に移行していく。その中で仲間１人ひとりのペースに合わせて４泊５日を実現したい。

→今年度は、職員体制が整わず、３泊４日で取り組みました。昨年度より、メンバーとなった仲間たちも少しずつ、慣れてきた印象です。職員体制を整えて４泊５日の実現をしていきたいです。

→青色の麦に関しては、４泊５日を継続してきました。その中で、３泊４日のままの仲間もいました。今後、本人のペースに合わせて日数を増やしていきたいです。また、青色の麦のメンバーに関しては安定している分、３６５日に向けて職員体制を整備していきたいです。

2、集団生活の中で「ルール」作り

①　仲間同士の関係を深めていくことを大事にしていく

・赤・緑色の麦は、言葉がない仲間が多い中で、「一緒にできるモノやコト」が大事で仲間意識を育むことに繋がってくる。一緒にDVDを見る（内容は仲間たちで相談しながら）コトや一緒に遊べるモノの整備をして「一緒に遊ぶ」ということを取り入れていきたい。

→今年度は、新型コロナウィルスの影響から、買い物は取りやめて職員で行っています。

今年度は、仲間たちで「一緒にできるコトやモノ」を大事にしようと取り組んできました。その１つとしてアマゾンプライムをツールとして用意し、みんなで一緒に映画を観たりしました。しかし、「何を観よう」となったときに言葉のある仲間中心になってしまうことが多く、同じものばかりになってしまうことが多かったので、もう少し仲間の会での話し合いをしていくことが課題となっています。

・青色の麦は、仲間同士の関係性を深めていくのに仲間たちが共同生活の中で役割の必要性を感じている。調理や掃除など役割ができつつある中で、全員がしっかりと役割を持てるようにしていきたい。

→今年度は、新型コロナウィルスの影響から買い物は取りやめて職員で行っています。

青色の麦では、比較的に動ける仲間たちは、調理を手伝ったり、そうでない仲間は朝食で使う玉ねぎの皮むきをしたりと朝食準備をしたりしています。食事の準備という面では、役割が自然とできつつあることを感じています。また、一方で一緒にトランプをしたり、１人の仲間の部屋に集まったりもしています。調理の中での役割は除々にできてきています。

②　集団の中にも仲間の「個」の部分に関しても大事にしていく

・赤・緑色の麦は、言葉のない仲間が多い中で、仲間たちの主訴を汲み取ることを今まで以上に意識していく。その中で、仲間同士の関係性も深まっていく。また、職員が入りながら、「話し合い」をしていきたい。

→今年度は、「話し合い」が今までで一番少ない状況でした。いろいろな職員が入れ替わりで入る中で、話し合いをもっと持っていきたいと感じています。言葉のない仲間が多い中で、どのように仲間たちの主訴を汲みとり、引き出していくか職員としても課題となっています。また同時に、仲間たちにとっても仲間意識が育つ土壌となります。

・青色の麦は、動きの良い仲間たちが多く、様々なやりたいことが出てきている。特に余暇の部分が重要となるが、本人たちのやりたいことを尊重していきたい。一方でやりたいことばかりやるのではなく、やらないといけないことも同時に意識できるようになってもらいたい。青色の麦でも「話し合い」をもっとしていきたい。

→普段の生活の中で調理や掃除などの役割はできつつあり、仲間たちも意識できています。このコロナ禍で、やりたいと思うことでもできないとき（外へ出掛ける等）が多かったのですが、室内でできること（トランプやカラオケなど）を中心に仲間同士で楽しむことができた（職員も入りながら）。今では、自発的に「トランプやりたい」などを言ったり、持ってきたりということも増えてきています。一方で調理などの場面で役割ができたりと「やらないと」とご本人たちも意識することが出始めてきました。

3、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

①　体験利用の仲間たちの生活リズムを安定させていく

・体験利用の再開に向けて赤・緑色の麦の安定を図りたい。赤・緑色の麦は9名の仲間たちが生活している。１名の体験利用の枠がある。月に１泊２日で以前同様で再開できるようにしたい。

→年度後半（１１月）より、体験利用を再開することができました。久しぶりの体験利用でしたが、それぞれの仲間が期間が空いても覚えている印象です。眠れないということも少なく過ごせています。今後も継続していき、さらなる安定を図っていきます。

4、職員体制の確立と業務の確立

①　連絡体制の確立

・ミーティングの方法を検討する。赤・緑色の麦と青色の麦の両方のミーティングは時間的にも職員の負担は大きい。記録を使っての申し送りなど検討していきたい。

→今年度は、施設長の入院があり、年度途中より副施設長を中心にミーティングをし、ホームと日中を繋いでいます。記録を使った申し送りというのは、やはり検討していく必要を感じています。

② 職員確保

・女性の夜勤者、男性の遅番、早番のできる職員の確保をし、赤・緑色の麦の４泊５日を実現したい。年度後半にできた職員紹介制度の活用や新たに準正職員の創設をし、職員確保に努めたい。

→年度後半に女性１名が夜勤希望で応募があった。毎週夜勤ができるとのことで、期待しています。来年度には４泊５日を実現したいです。また、４泊５日に限らず、３６５日を目指してさらに職員を確保していきたいです。

ホーム利用　仲間総括文章
《青色の麦》

Y・K

今年度も引き続き安定して3泊4日で泊まることが出来ています。
安心する自室の「おふとん」は変わらずですが、仲間の会での司会では最後まで進行を職員と一緒に出来ることも多くなっています。
自我の発達してきていることもあり今後は今よりY・Kさんが安心して楽しく過ごせる環境作りに取り組み宿泊日数を伸ばせるようになっていきたいです。　（北村）

MK・K

七麦から青麦に移ってからもうすぐ2年たちますが、青麦での生活リズムもしっかり出来てきています。青麦での楽しみでもある仲間職員とのトランプや寝る前のラジオを楽しんで過ごされています。また、排便調整の為ビオフェルミンを服用することで調子が良いです。Mさんは安心して青麦で過ごすことが出来ているため、今後は彼の見えない景色をもう少し考えられるよう支援をしていけたらと思います。　（北村）

T・T

健康面では、始めは納得がいかない様子でしたが、年齢と高血圧を考慮して主食の量を制限。定期的に通院を続けていますが、ご自身での服薬管理は難しいです。

共同生活面では、きめ細やかな心配りで、共有のタオルを洗濯、台所に立って食事の手伝いをしています。また、職員に手話を覚えてもらうようにと、居間の壁には手話の本、指文字の表が掲示されています。Tさんの思いに寄り添うだけではなく、少しでも手話を覚えて日常会話も大切にしていくことが出来ればと考えています。　（古謝）

N・M

余暇の時間ではトランプカードで、職員を誘って得意な神経衰弱を好んでやっています。食事では、職員が勝手に、Nさんにとって苦手な食材だと思い込んでいても、少し工夫すると完食することもあります。オウム返しだけでなく、言葉の掛け方次第で、楽しそうにコミュニケーションをとっています。最近では、いたずらな表情をして、職員の見ていないところで、居間の壁掛けカレンダーに、お泊りであろう予定を数ヶ月も先まで書き込もうとしています。これからもっとNさんの新しい一面を皆で引きだしていければと考えています。
（古謝）

YK・Y

夕方、朝とｷｯﾁﾝに並んで食事の手伝いを率先しています。お金の管理についての課題は、苦戦しながら記録し、習慣となっています。仲間の世話を焼いたり、男性職員をお風呂に誘ったりと楽しそうに生活をしている一方で、日々の出来事による悩みは尽きないようです。相談事についての解決を求めているのではなく、ただただ自分の話を聞いて欲しいようです。
（古謝）

《七色の麦》
◎レギュラーメンバー◎

KU・K

お部屋の引越しをして2年目。トイレに行くことにも慣れてきて、夜中に自分で起きて排尿を成功させることもできています。自分で飲み終わったコップや使用したタオル等を片付ける等、やれることも増えてきています。Kさんなりにホームでの過ごし方にも慣れてきたのか、職員の名前を文字盤で指し、色々対話することも楽しんでいる様子もうかがえています。（岩切）

K・N

本年度は七麦で時間を過ごす機会が増えました。買い物や、導尿の為自宅へ向かう道中アルミ缶や電池が落ちてあるのを見つけるとすぐ教えてくれました。時間がある時は一緒に回収作業をしてくれました。これからも本人の為になる事であればできる限り寄り添って考えていけたらと思います。（坂本）

T・M

看護師が在中している火曜日の宿泊が続いていました。
トイレでの姿勢が安定せず、排泄のリズムが作れずに夜中におむつで排尿することが多かったため前田PTと相談し、Tさんに合わせたトイレの工夫をしています。しかし、今年度、3回入院することがあり、なかなか体調が安定せず宿泊できない日が今も続いています。（多良）

A・M

ホームに入って２年目の仲間です。ホームの夕食はほぼ完食。たまに他のメンバーの物に手を伸ばす事もあります。普段の朝食は介助が必要ですが、自分で起きることが出来た日は自発的に食べてくれます。活動としては職員と一緒にタオルたたみ、片付けるなどの手伝いもしてくれる様になりました。（伊藤）

A・U

ムードメーカーなＡさん。体調不良でお休みすることなく過ごせました。排便の管理、スキンケアが必要で、お母さんと相談の上、進めていきたいです。（川口）

SH・K

ホームにおいても、酸素の吸入は継続しています。他の仲間や体験の仲間に積極的に声をかけたり、食事の準備などを手伝ったりと、自発的に動く場面が多くみられました。自分の力で頑張っている一方で、本人の心の面の支え、甘えることのできる環境づくりはこれからも必要です。（栁原）

TK・S

体調の大きな崩れはなく、お休みすることが少なかったです。睡眠のリズムができていて、眠剤もほとんど使用せずに過ごせることができました。（川口）

N・T

昨年同様、睡眠や食欲に波はありますが、全体的には安定して過ごせた1年でした。ただ、朝ご飯の食べがいまいちで、お母さんと相談しながら、食材を工夫したりしました。
排便も下剤を服用して、定期的なお通じを促しています。食事以外の水分も、こまめに進めることで、以前よりたくさん飲むことができました。（大下）

G・H

七色の麦での生活にも順調になれています。排泄も夜3回、朝2回のペースでリズムもできてい

ます。発作の対応など職員も徐々に慣れてきています。今年度は1度熱発でお休みしましたがその後は順調に泊まれており、緊急のお泊りなどにも対応できています。　（多良）

◎体験メンバー◎

TK・A

今年度は１１月より月１回の利用をしています。それ以外にも２～３回ほどの利用はあり、ご本人も少しずつではありますが、慣れてきている印象です。今後は、生活の中で役割を持っていくことが課題となってきます。　（村松）

Y・K

今年度は、昨年度に続き、体験利用を延期してもらっていましたが、年度前半にこばと学園の入所が決まりました。６月からの入所でそれに伴い、七色の麦も利用していません。
（村松）

R・K

今年度の１１月より月に１回の定期的な利用を再開しました。夜勤職員も新しい職員という中での再開でしたが、新しい職員ともコミュニケーションが取れています。今後も継続していき、七色の麦での生活において、役割を持つことが課題となってきます。　（村松）

KS・K

今年度の１１月より月に１回の定期的な利用を再開しました。昨年度の長期入院があけてから初の体験利用ということもあり、食事や水分など形態が変わったこと、睡眠など健康状態の安定がポイントですが、今のところ安定して睡眠も取れています。体験利用を継続して親元を離れるということに慣れてもらいたいと考えています。　（村松）

E・K

体験利用が再開した後は、久しぶりの利用であったが、慣れた仲間や職員と一緒に過ごすことで、リラックスして過ごしています。睡眠に関しては、寝付くことに時間がかかり寝不足になることもありますが、それ以外の場面では職員や仲間にスキンシップをとるなどやり取りを楽しんでいます。　（栁原）

A・SB

11 月より、体験利用が再開し、晶さんも利用開始しています。今までは、居間の横の空き居室を利用していましたが、利用者が入ったので、防音の部屋を利用しています。もともと七麦では睡眠は安定していませんでしたが、久しぶりだったこともあってか、なかなか眠れませんでした。しかし、お手伝いなどは積極的にやってくれて、お泊まりを楽しんでいる様子がみられました。
（大下）

M・T

体調不良により、今年度の利用はありませんでした。　（川口）

R・W

今年度も昨年度同様に体験利用はしていません。他施設のショートステイを利用しています。今後は、必要に応じて親御さんと相談していきたいです。
（村松）

2021(R3)年度　事業計画

共同生活援助事業　七色の麦

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

①赤・緑色の麦の個々の生活リズムの安定と青色の麦の生活の中身の安定をしていく

- 赤・緑色の麦では、体調面で不安を抱える仲間が１名いる。その仲間以外の仲間は、概ね安定している。仲間の体調の様子を見ながら泊数を増やしていきたい。
- 青色の麦は、生活リズムは概ね安定している。

②赤・緑色の麦の４泊５日の継続と青色の麦の３６５日実現に向けて

- 赤・緑色の麦は、昨年度の終わりより４泊５日に移行。これを継続していきたい。
- 青色の麦は４泊5日になり２年目となる。これからは、３６５日の実現に向けて職員体制を整備していきたい。

2、集団生活の中で「ルール」作り

①　仲間同士の関係を深めていくことを大事にしていく

- 赤・緑色の麦は、言葉がない仲間が多い中で、話し合いは、仲間意識を育むことに繋がってくる。言葉のない仲間たちの話し合いに職員が入っていくことで「こんなこと言っているよ」など仲間たちの「言いたいこと」を他の仲間に伝えていくことが大事になってくる。積極的に仲間たちで話し合っていきたい。
- 青色の麦は、仲間たちの主体性を尊重していきたい。例えば、夕食や朝食のメニューを自分たちで決めたり、「こういう取り組み」をしたいなど仲間同士で話し合っていきたい。

②　集団の中にも仲間たちの「個」の部分を大事にしていく

- 赤・緑色の麦は、言葉のない仲間が多い中で、仲間たちの主訴を汲み取ることを今まで以上に意識していく。１人1人がどのようなことが好きでどのようなことに反。応がいいかなど仲間1人1人にスポットを当てて主人公にしていくことを大事にし

ていく。
・青色の麦は、仲間たち自身が自分が「こうしたい」「ああしたい」など自分自身で決めていくことを大事にしていく。その際に自分自身を大切にすると同時に「集団」の一員ということも意識できるようにしていく。

3、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

①　体験利用の仲間たちの生活リズムを安定させていく

・昨年度後半より体験利用を再開。以前から体験利用をしてきた仲間たちなので生活リズムは安定してきている。一方で他の仲間で体験利用の希望は出てきている。新たに体験利用を希望する仲間ができるように整備していきたい。

4、職員体制の確立と業務の確立

①　連絡体制の確立

・ミーティングの方法を検討する。赤・緑色の麦と青色の麦の両方のミーティングは時間的にも職員の負担は大きい。ノートの活用など方法について検討していきたい。

②　職員確保

・七色の麦の４泊5日の維持、青色の麦の３６５日に向けて女性の遅番や早番の確保、夜勤体制の見直しなど多角的にみていき、実現に向けて職員間で話し合っていきたい。